市民参加のPR・誘客活動を

勢整備部会として、いろいろな事業に取り組んできました。

NHKと協議会で開催した「あまちゃん」のロゴの取り扱いや申請方法などの説明会には市内を中心に約60事業所が集まりました。商品開発に関する相談会には市外からも申し込みがあり、関心の高さを実感しています。

齋藤　NHKから「ドラマに秋まつりを取り入れたい」「山車を使いたい」と言われました。手作りの山車になって10年も経たない段階で全国に久慈の山車が発信されるということを断る理由もなく、すんなりと了解しました。

全国の皆さんに見ていただけることは、山車組としてこれ以上の冥利に尽きるものはないと思います。

地域の資源や魅力を

市長　情熱を持って、部会・分野で活動を展開していただいていますことに、感謝するとともに敬意を表します。

ロケーションやその支援に携わりまして、改めて地域の資源や魅力を確認した、気づいたことを聞かせてください。

大向　ロケーション中に、地元で獲ったサバやサケの煮物や昔ながらのジャガイモ料理などを差し入れたら、「すごく美味しい！」と好評でした。獲れたての旬の魚などを提供することができて、すごく良かったと思います。

齋藤　山車をドラマ用に改造してほしいと依頼があり対応しました。その際、山車組の作業を見たNHKのスタッフから「職人がそろっていますね」と驚かれました。また、山車小屋でこれまでに使った人形の首や衣装などを「とんでもなく素晴らしいものだ」と絶賛していただきました。それだけでも自信が持てた感じです。

力を合わせ観光客を受け入れたい

市長　放送による情報発信だけではなく、地域として発信していく方法とその効果について考えをお聞かせください。

細田　去年から少しずつ復興応援から観光へという動きになりつつあるので、当市での受け入れ態勢・情報をどんどん流していく必要があると思います。実際にツアー企画の問い合わせも来ています。案内や説明をする人の確保・育成なども必要です。

桑畑　ドラマの出演者やスタッフが久慈にいた間、夜は必ず市内の店舗で食事をしていました。放送が始まり観光客が来たとき、地元の人がお店の情報を分からないのでは困るので、海も山も里もある久慈のいいところ、おいしい旬の食べ物などを市民や観光客に向けて発信したいです。

海・山・里いいところを発信したい

市長　市観光物産協会では「あまちゃん」を活用した商品の開発や市のご当地キャラクター「アマリン」の商標登録も進めています。今後の状況等についてお話いただきたいと思います。

中野　事業者からよく聞かれるのは、商標の取り扱いや、パッケージのデザインに関したことです。そういった部分はセミナーや相談などの支援活動をしていきたいと考えています。

「あまちゃん」をきっかけに地域のいいものは再発見されて伸びていくと思います。それをきっかけに新しく事業を始めたい人への支援も行っていきたいと考えています。

さらなる可能性に向け

市長　放送を機に広がる観光産業の活性化。可能性をさらに広げ、持続させるために必要な取り組みとはどういったものなのでしょうか。

細田　「北限の海女」も「秋まつり」もずっとあった観光資源。それらを「あまちゃん」を通じて観光に来た人たちに快適に見ていただくことを考える必要があると思います。観光資源に付随した周りの環境を整えていくことはとても大切だと思います。

「また見に来たい！」「友達や親戚に見せたい！」と言われる観光地にするためには、態勢づくりや準備なども必要だと思います。秋まつりの各山車組や海女の会の皆さんなどと協力し、準備を進めたいと考えています。

笑顔でウニを振る舞う海女の皆さん

桑畑　放送時期の4～9月には多くの観光客に来ていただけると思いますが「あまちゃんといえば久慈」とアピールができるような仕掛けづくりが必要だと思います。「あまちゃんフェスティバル」の開催や、ヒロインを観光大使に任命するなど、アイデアはいろいろあると思います。

大向　現在は観光活動として海に潜っていない先輩海女さんが、観光期間中は昔から伝わってきた郷土料理を作っています。先輩海女さんたちの力が裏で支えてくれています。

地元を意識したまちづくり

また、平成17年度から現在まで高校生海女クラブは活動を続けています。夏休み中を含む3カ月間、一緒に活動することによって私たちも元気と活力をもらっています。

地域の方々のご協力をいただきながら、海女の会と高校生海女クラブ、先輩海女さんたちと共に、観光客を受け入れ、活動していきたいと思っています。

中野　私は、あえて地元を意識することも大事かなと思っています。市内の有名飲食店に観光客が足しげく来るのは、大々的にPRした結果ではなく、地元の人が「おいしい」と食べていること、それが観光客を呼ぶ要因にもなっている気がします。

地元の人から観光客に「あそこはいいですよ」と紹介してもらえるようなお店にすることが大事だと思います。

齋藤　まつり組は毎年、「今年もすごい！」と言われるような山車を目指して作ってきました。今後、放送の効果で県外からの観光客が来ても、そして何年か経ってまた来ても「久慈の秋まつりはすごい！」と言われるような山車づくりを目指しています。

また魅せ方を頑張ろうと目標をもって取り組んでいます。

素晴らしい手作り山車を全国に－

新年の活動への抱負

市長　それぞれが「あまちゃん」の放送を機に市全体を盛り上げていくことで、また来たくなる久慈市になるのではないでしょうか。

最後に、新年に向けた抱負や、まちへの期待などをお聞かせください。

細田　放送開始前に誘客宣伝部会として十分なPR・誘客活動をするとともに、市民参加型の態勢を作りたい。もてなしの店や、もてなし宣言など全市民でやっていけるようなもので盛り上げていきたいと考えています。

桑畑　市には「人」をはじめとする素晴らしい財産があります。これをぜひ生かしていくべきだと思います。

大向　「あまちゃん」の放送によって地元のいいところが発信されると思います。

放送が震災の痛手を少しでも取り除き、復旧・復興に向けて最後まであきらめず頑張る希望になってほしいです。

中野　ドラマはまちおこしもテーマです。ドラマの盛り上がりとともに、まちのみんなが自分たちもやってみようと盛り上がり、一緒にまちづくりをやっていければいいなという夢があります。

齋藤　久慈といったら海女、海女といったら久慈というイメージを内外に作ってもらい、ドラマの放送終了後も久慈には海女がいるというイメージを残してもらいたいです。そして、各方面の皆さんから観光客を集客していただき、秋まつりにも多くの皆さんに来ていただきたいと思います。

市長　一過性に終わらせてはいけないという皆さんの考え、またそのために必要な工夫の話もいただきました。

市民一人一人が地域の素晴らしさを気づいて発信できる態勢にしておかなければならないのだろうと思います。

皆さんのこの一年のさらなる活躍を心からご期待申し上げて新春座談会を閉じたいと思います。ありがとうございました。

ウニを採る北限の海女。海女センターには毎年多くの観光客が訪れます。